

[育林第二研究室]A. 山岳奥地林の造林に関する研究 ： 2. 山岳奥地林のスギ、ヒノキの生長量と気象に関する研究

垣内, 重三郎
九州大学農学部附属演習林 : 助手

汰木, 達郎
九州大学農学部附属演習林 : 助教授

<https://doi.org/10.15017/1456272>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和41年度, pp.109-109, 1967-07-10. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :

2. 山岳奥地林のスギ、ヒノキの生長量と気象に関する研究

垣内 重三郎 ・ 汰木 達郎

本研究は気象諸条件と林木生長との相関関係ならびに全造林地の造林成果を検討することを目的とする。

調査対象地は、宮崎県東臼杵郡椎葉村、九州大学農学部宮崎演習林のスギ、ヒノキの造林地で、供試木は21年生から26年生までとした。

A. 供試材採取個所

団地	林小班	スギ	ヒノキ
矢立	1は、に	6 (本)	6 (本)
合戦原	5は	3	—
〃	7に	6	6
三方	16へ	6	6
〃	19は	6	—
〃	26ろ	3	3
〃	29ろ	6	6
〃	33ち、り	6	—
〃	36い	9	—
計		51	27

B. 採取要領

造林地の高さを地図および現地測定により下、中、上の3段階に区分した。各段階の地域で標準地と思われる区域の海拔高、方位、傾斜度、および土壌の土質、深度、湿度を測定しその区域の立木25本について直径の測定を行ない、その中の平均木とみなされる立木1本を伐倒した。供試材の円盤はこれら伐倒木の地上高20cmから1m間隔で採取した。

C. 気象資料のとりまとめ

昭和14年3月から昭和41年10月までの、月別、年別降雨量、降雨頻度と気象の観測結果をとりまとめ中である。